

## 東区まちあるき レポート

### 東区 E 産探求プロジェクト事業

学生記者として 山の下・通船川まちあるき を終えて / 茂野愛香

21歳の夏休み、現在通っている学校からボランティアの募集のメールをいただきました。新潟市内に通学して2年目の私は新潟市内についてもっと理解を深められるチャンスだと思い、東区 E 産探求プロジェクト事業の 山の下・通船川まちあるきの「学生記者」として参加させていただきました。

人生初めての「学生記者」という体験ですが、そのことを含め学びがいがあり、とても楽しい1日になったので僣越ながらレポートを書かせていただきます！

最初に訪れたのは、山の下神明宮。この神社は蒲原神社の神主の方が神主を務めているそう。

※写真①、②



山の下神明宮の屋根にある「鰹木（かつおぎ）」の本数が七本で、鰹木の本数が奇数だと男性の神様を祀っていて、偶数だと女性、と判断できるらしい……。遠くからでもすぐ簡単に分かるので、私の近所にある神社も確認してみようと思いました。

次に 山の下市場 へ。

ここの通りは今こそお店が少なく廃れてしまっていますが、かつてはとても賑わっていた市場だったと言います。

※写真③、④



その経緯として、明治 28 年に日本石油新潟鐵工所が山の下に開業以降、どんどん人口も増え道路も整備されてこの区画も整備されたようです。

最盛期にはなんとこのアーケードに 50 軒ものお店が並び、朝から開いた市場は午前 11 時には全部売り切れて買えない主婦の方も大勢いたそうです。

※写真⑤



ここにお店同士が向き合う形で形成されていて、それが道路を挟んで両側に並んでいたそう。

次に市場の終わりからすぐの 山辺堀緑地 へ。

この山辺堀は「物見山砂丘」があったそうで、砂丘の裾に流れ出した湧水が川になり、信濃川に続いていました。ですが新潟地震の影響で暗渠化し、緑地帯として整備された時に桜が植えられ、現在ではとても綺麗な桜並木を見ることができます。

※写真⑥、⑦



私たちが歩いた日は綺麗な緑の葉っぱで視界が埋まっています、これが全部ピンクの桜になると想像するだけで春が楽しみです。歩く道が狭めなのでその分 360 度桜に囲まれそうですね。意外と穴場かも...

次は 慈光寺 へ。

※写真⑧



昭和 8 年に京都から等身大の阿弥陀様を迎え、後に本堂や庫裏を整備したらしいです。ここの土地は標高が高く、一番高いところは 23 メートルもあると言います。ここは太平洋戦争の時に軍が大砲を撃っていたそうです。急に戦場にいる気持ちになってしまってびっくりしました...。私たちが今いるところもかつては戦場になっていたと考えると、今の平和な風景は素晴らしいことですね。

次に 大山台公園 へ

まず、着くまでがすごく大変でした...。急勾配の坂を同じ班の参加者の皆さんとゼーハー言いながら綺麗な景色に到着しました！

※写真⑨、⑩



この丘は、太平洋戦争末期にアメリカ軍の B29 を一機撃墜した場所でもあるそうです。万代島から撃って命中した残骸の一部は新潟市歴史博物館に展示されています。

展望台を登ってみると、圧倒的絶景！！思ったよりも高さがあり、綺麗で風が気持ちよかったです！

日航ホテルなどの新潟市街地から、工業地帯、飯豊連峰まで見渡せます。夜になると工業地帯の夜景がとても綺麗だそうです。

次に今回のまちあるきのメインでもある 通船川 へ。

...の前に、かつて大手だった綿紡績会社の「旧ニッポー新潟」付近で参加者の皆さんが「ここに美味しいパン屋さんありましたよね？」と一人の方が声を上げると「あった！」「無くなっちゃいましたよね」と皆さんが声を揃えて話し始めたのは、「南雲ベーカリー」というお店のお話。

後ほど調べてみたら、昭和 26 年に開業し、平成 27 年に閉業しています。「納豆コロツケパン」というパンが名物らしく、とても美味しそう！班の皆さん全員が知っていたらしく、私は話に入れず...。こんなにも地元の方々に愛された南雲ベーカリーさんに行ってみたかったな、と心から思いました。

たくさん一緒に歩き、同じ感動を共有し、きつい坂を乗り越えた私たちは気がついたら仲良しに。

そしてメインの通船川へ。

通船川は、阿賀野川の跡地を整備したものです。一度洪水で塞がれてしまった阿賀野川の水路を整備し、船を通れるようにして出来たのがこの川です。明治～大正にかけて蒸気船が船行し、中流部では筏に組まれた丸太を船で引く光景が見られたと言います。

※写真⑩



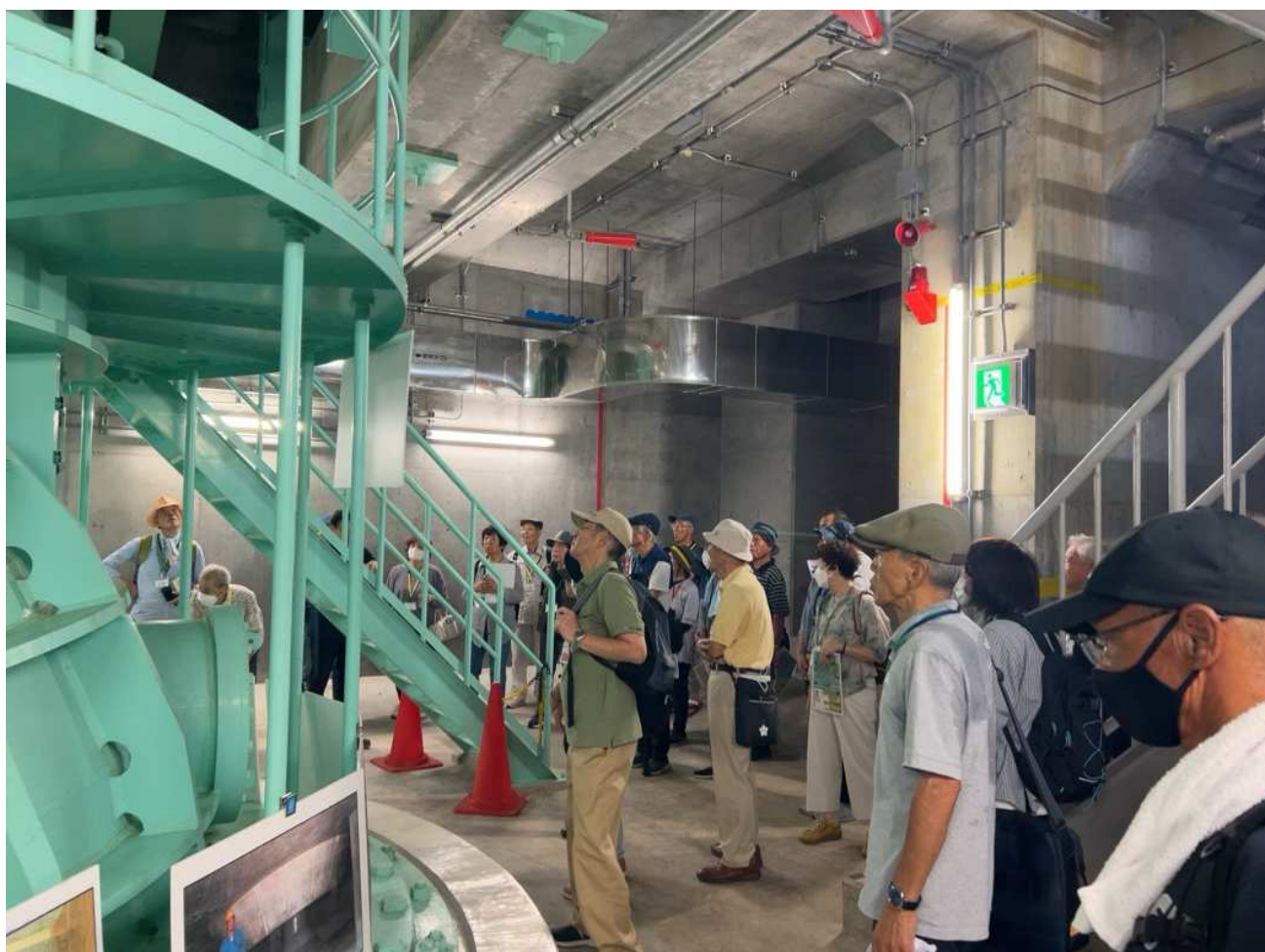
次に通船川と深い関係があり、東区民の生活を支える重要な施設である「山の下閘門排水機場」へ。

この地域の人々が排水機場が重要な理由として、標高の問題があります。

通船川、栗ノ木川地域にはいわゆる「ゼロメートル地帯」が多く、昭和 39 年の新潟地震では堤防が崩れ落ち、甚大な被害を被りました。それから復旧事業として流入量と排水量を調節する「低水路方式」で管理水位を、信濃川と阿賀野川の水位に対して 2メートル以上低くすることで水位を保っています。

私は「閘門」という単語を初めて聞いたのですが、「水位を調節し、船を通船させるための施設」という意味だそう。閘門にも種類があり、山の下閘門排水機場の扉は観音びらきになっていて、「セクターゲート方式」という日本国内でも珍しい方式をとっているそうです。

※写真⑫



実際に排水機場内に案内していただきました。ポンプの主原動機を見せていただいた後、施設の職員の方から、通船川の歴史や山の下閘門排水場の仕組みや機能などを教えていただきました。

バスで集合場所の東区役所に戻り、お昼ご飯。同じ班の人たちで机を囲んでお弁当を食べます！豪華なお弁当で美味しかったです。私の班はガイドさんが大人気で、聞きたいことをご飯中も質問していました。まちあるき中もそうでしたが、質問に対してすぐパツと答えが出てきてさすがだな～と思っていました。

皆さん優しい方ばかりで、私も参加者の一人として楽しんでまちあるきをさせて頂きました！

産業地域の東区は、普段私たちが一見ただけでは分からない、地元の方しか知らない歴史や文化が存在していることを身をもって実感しました。また、私は新潟市外の人間なのですが、実際に山の下地域に長い年

数住んでいる参加者の方たちとのお話も刺激になりました。昔あった店や、まちあるきコース周辺の土地のお話などを聞いていると、山の下に住みたくなります！

このようなイベントが全国各地、それぞれの市町村で開催してくれないかな、と思った1日でした。

人に歴史あり ですね！

最後までお読みいただきありがとうございました！